

# 博士論文（要約）

論文題目 現代中国語における「比較」と「程度」の考察  
——“还”、“更”、“比较”を中心に——

氏名 前田 真砂美

# 目 次

序 章 研究目的と研究背景	1
<b>第一章 “还” の意味分析</b>	
1. 1. はじめに	11
1. 2. 先行研究と問題提起	11
1. 3. 動詞から副詞への意味拡張	13
1. 3. 1. ベースとプロファイル	13
1. 3. 2. 動詞“还 huán”	14
1. 3. 3. 事態の傾き	16
1. 3. 4. 【还 <sub>0</sub> 】の原状回帰	19
1. 4. “还” の用法	20
1. 4. 1. 高程度【还 <sub>1</sub> 】の場合	20
1. 4. 2. 低程度【还 <sub>2</sub> 】の場合	25
1. 4. 3. “还” の文法化	30
1. 5. 意外性	31
1. 6. まとめ	34
<b>第二章 “更” の意味分析</b>	
2. 1. はじめに	35
2. 2. 先行研究からみる“更”の二義性	37
2. 2. 1. 小野 1998	37
2. 2. 2. 《八百词》	39
2. 3. 〈さらに〉を含意しない“更”	40
2. 3. 1. 外在的要因——文脈	40
2. 3. 2. 比較参照 Y に対する認識	43
2. 3. 3. 〈さらに〉との共通点	46
2. 4. “更” の機能と含意	46
2. 4. 1. 内在的要因——“更” の機能	46

2. 4. 2. 三項比較	50
2. 4. 3. 〈さらに〉という含意	52
2. 4. 4. 〈不十分さ〉という含意	53
2. 5. “更”の文法化	56
2. 5. 1. 王阳阳・马贝加 2007:73	56
2. 5. 2. 〈さらに〉の意味論的経緯	61
2. 6. “还”と“更”	62
2. 6. 1. 最上級	62
2. 6. 2. “更”と「差」	64
2. 6. 3. “更”と「たとえ」	70
2. 7. まとめ	77

### 第三章 “比较” の意味分析

3. 1. はじめに	81
3. 2. 〈相対性〉	84
3. 2. 1. 〈外的相対性〉と〈内的相対性〉	84
3. 2. 2. “比较”の〈相対性〉	86
3. 3. “比较”の〈外的相対性〉	87
3. 3. 1. 比較の基準	87
3. 3. 2. “比较”と「～のほうが～」	92
3. 3. 3. 範囲指定から生じる“比较”の含意	94
3. 4. “比较”の〈内的相対性〉	98
3. 4. 1. 標準値の設定	98
3. 4. 2. “比较”の絶対的程度副詞化	100
3. 5. “比较”の程度性	102
3. 5. 1. 「一定の程度」とは	102
3. 5. 2. 断定性の緩和	108
3. 5. 3. “比较”の表す高程度	111
3. 6. まとめ	112

## 第四章 比較構文の語用論的考察

4.1. はじめに	115
4.1.1. 比較構文とは	115
4.1.2. 問題のありか	116
4.2. 比較のモード	121
4.2.1. “比字句”と比較構文	121
4.2.2. 明示的比較と非明示的比較の識別テスト	122
4.2.2.1. 細密判定	122
4.2.2.2. 絶対形容詞との共起	123
4.2.2.3. 差異測定	124
4.2.2.4. 談話構造	125
4.2.2.5. 反義語入れ替え	126
4.3. 比較構文と程度副詞	127
4.3.1. 対比性のキャンセル	127
4.3.2. ポライトネスとしての比較構文	131
4.3.3. 比較構文における“比較”	134
4.4. まとめ	136
終章 結論と今後の課題	139
参考文献一覧	143
用例出典一覧	151

本文

博士論文本文は5年以内に出版予定。

参考文献一覧

〈日本語〉

- 相原茂監訳 1991 『現代中国語文法総覧』, くろしお出版
- 相原茂・荒川清秀・大川完三郎・杉村博文 2000 『どうちがう? 中国語類義語のニュアンス 2』, 東方書店
- 相原茂・木村英樹・杉村博文・中川正之 1991 『中国語学習 Q&A 101』, 大修館書店
- 秋元実治・前田満編 2013 『文法化と構文化』, ひつじ書房
- 安藤好恵 1994 “有点儿”と“比较”について, 『お茶の水女子大学中国文学会報』 第13号 : pp.1-12
- 池田晋 2005 “来”の代動詞的用法とダイクシス, 『中国語学』 252号 : pp.144-163
- 池田晋 2008 “来”“去”の接続機能, 『中国語学』 255号 : pp.95-115
- 井上優 2013 『相席で黙ってられるか——日中言語行動比較論』, 岩波書店
- 大島潤子 1997 程度副詞“比较”の意味分析, 『中国語学』 244号 : pp.72-80
- 大島潤子 1998 日本語と中国語の比較を表す程度副詞をめぐって——「もっと」と“更”, 『国文目白』 37:24-32, 日本女子大学
- 太田辰夫 1958 『中国語歴史文法』, 江南書院
- 奥田寛 1997 日・中両国語の比較文—おもにその比較成分のあらわれかたをめぐって, 大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集(合本)』, pp.117-136, くろしお出版
- 小野秀樹 1998 中国語の比較文——“比字句”の意味と構造をめぐって, 『中国語学』 245号 : pp.92-101
- 小野秀樹 2010 “挺～的”と“太～了”の意味機能, 『汉语与汉语教学研究』創刊号 : pp.17-31, 東方書店
- 川端元子 2002 比較構文に出現する程度副詞——スケールの相違という観点から——, 『日本語科学』 12 : pp.29-47, 国立国語研究所
- 木村英樹 1990 文脈依存と状況依存, 『中国語』 8月号 : pp.25-28, 内山書店
- 木村英樹 1992 BEI 受身文の意味と構造, 『中国語』 6月号 : pp.10-15, 内山書店
- 澤田治 2012 比較構文の語用論, 澤田治美編『ひつじ意味論講座2 構文と意味』, pp.133-155, ひつじ書房
- 澤田治美 2014 『現代意味解釈講義』, 開拓社

- 時衛国 2009 『中国語と日本語における程度副詞の対照研究』, 風間書房
- 時衛国 2011 『中国語の程度表現の体系的研究』, 白帝社
- 時衛国 2012 『中国語の量的修飾構造の研究』, 好文出版
- 謝平 2010 中国語の程度副詞“比较”について—弁別性の観点から—, 『ことばの科学』第 23 号 : pp.69-84, 名古屋大学言語文化研究会
- 鈴木孝夫 1973 『ことばと文化』, 岩波書店
- 竹田治美 2012 『宋代語録における副詞の研究』, 白帝社
- 寺村秀夫 1982 『日本語のシンタクスと意味 I』, くろしお出版
- 月村辰雄 2004 比較のレトリック, 『月刊言語』 vol.33 no.10 : pp.58-65
- 中川正之 1975 多・遠と的——日本語との比較から——, 『アジア・アフリカ語の計数研究』第 1 号 : pp.31-45, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 西野清治・Nicolas GAILLARD 2005 時間的な意味が感じられない用法の *encore*——*passe encore* 「まだました」と *et encore* 「そう言ったものかどうか」——, 武内道子編 『副詞的表現をめぐって—対照研究—』, pp.117-149, ひつじ書房
- 原由起子 1992 “还”と時間副詞, 『日本語と中国語の対照研究論文集(下)』, pp.83-111, くろしお出版
- 古川裕 2004 中国語の比較構文と程度副詞, 『月刊言語』 vol.33 no.10 : pp.48-49
- 前田真砂美 2007 副詞“还”の認知的意味分析, 『中国語学』 254 号 : pp.241-262
- 前田真砂美 2010 副詞“更”の意味——〈さらに〉の含意をめぐって, 『中国語学』 257 号 : pp.127-146
- 前田真砂美 2011 “比字句”における“还”と“更” : 「差」と「たとえ」の表現, 『東京大学中国語中国文学研究室紀要』第 14 号 : pp.118-134, 東京大学中国語中国文学研究室
- 前田真砂美 2013 程度副詞“比较”の〈相対性〉, 『木村英樹教授還暦記念中国語文法論叢』, pp.451-473, 白帝社
- 町田健 1997 形容詞の意味について, 『北海道大学文学部紀要』 45(3) : pp.247-272
- 水野義道 1984 「更 *gèng*」と「もっと」をめぐって, 『日本語と中国語の対照研究』第 9 号 : pp.84-96
- 森宏子 1996 比較文に現れる“要”について, 『中国語学』 243 号 : pp.104-113
- 森山卓郎 2004 日本語における比較の形式, 『月刊言語』 33(10) : pp.32-39

- 八木孝夫 1987 『程度表現と比較構造』, 大修館書店
- 山本秀樹 2003 『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』, 溪水社
- 山本秀樹 2004 比較表現あれこれ, 『月刊言語』 vol.33 no.10 : pp.24-30
- 楊達 1991 形容詞の程度を強める副詞について——情報のなわ張り理論を通じて——, 『中国語学』 238号 : pp.125-133
- 渡辺 実 2002 『国語意味論』, 塙書房

〈中国語〉

- 陈昌来 2002 《介词与介引功能》(张斌·范开泰主编/现代汉语虚词研究丛书), 安徽教育出版社
- 陈群 2006 《近代汉语程度副词研究》, 巴蜀书社
- 陈立民·张燕密 2008 释“还、再、又”, 《语言研究》第28卷第3期:pp. 26-36
- 褚俊海 2012 《汉语副词的主观化历程——指示、限制、关联》, 长沙:湖南师范大学出版社
- 储泽祥·肖扬·曾庆香 1999 通比性的“很”字结构, 《世界汉语教学》第1期: pp. 36-44
- 崔蕊 2014 《现代汉语虚词的主观性和主观化研究》, 北京:知识产权出版社
- 戴耀晶 2013 现代汉语句子中“起来”的语法化分析, 吴福祥·邢向东主编《语法化与语法研究(六)》, pp. 73-83, 北京:商务印书馆
- 邓凤民 2012 汉语比较标记和差比句语序类型, 《汉语学习》第2期:pp. 36-44
- 高育花 2001 中古汉语副词“更”探微, 《湘潭大学社会科学学报》第2期:pp. 91-94
- 高增霞 2002 副词“还”的基本义, 《世界汉语教学》第2期:pp. 28-34
- 郭锐 2008 语义结构和汉语虚词语义分析《世界汉语教学》第4期:pp. 5-15
- 郭锐 2012 形容词的类型学和汉语形容词的语法地位, 《汉语学习》第5期:pp. 3-16
- 郭志良 1993 试论“比…更/还…”结构, 《汉语研究》第3期:pp. 43-69, 南开大学出版社
- 何元建 2010 现代汉语比较句式的句法结构, 《汉语研究》第5期:pp. 11-19
- 胡裕树 1982 试论汉语句首的名词性成分, 《语言教学与研究》第4期:pp. 13-20
- 黄祥年 1984 比较句中的“更”和“还”, 《语言教学与研究》第1期:pp. 26-40
- 黄晓慧 1992 现代汉语差比格式的来源及演变, 《中国语文》第3期
- 蒋琪·金立鑫 1997 “再”与“还”重复义的比较研究, 《中国语文》第3期:pp. 187-191
- 季薇 2011 《现代汉语程度副词研究》, 北京:光明日报出版社
- 李忠星·陈顺智 2004 “再”与“还”说, 《南开语言学刊》第4期:pp. 85-92



- 刘钧杰·李行健 2007《八百汉字意义源流探索——〈现代汉语规范字典〉编写札记》，北京：中国广播电视出版社
- 刘月华·潘文娉·故[韦华]1983《实用现代汉语语法》，外语教学与研究出版社
- 刘月华·潘文娉·故[韦华]2001《实用现代汉语语法(增订本)》，北京：商务印书馆
- A. A. 龍果夫（鄭祖慶譯）1958《現代漢語語法研究》，北京：科學出版社
- 陆俭明 1980“还”和“更”，《语言学论丛》第6辑：pp. 191-209，北京：商务印书馆
- 陆俭明 1982析“像……似的”，《语文月刊》第1期 [季羨林主编 2001《陆剑明选集》，东北师范大学出版社]
- 吕淑湘主编 1999《现代汉语八百词（增订本）》，北京：商务印书馆
- 麻彩霞 2013《现代汉语“相对程度副词+动+宾”发展演变研究》，中国社会科学出版社
- 马真 1983说“反而”，《中国语文》第3期：pp. 172-176
- 马真 1984关于表示程度的副词“还”，《中国语文》第3期：pp. 166-172
- 马真 1986“比”字句新探，『アジア・アフリカ言語文化研究』第31期 [马庆株编 2005《二十世纪现代汉语语法论文精选》，pp. 632-650，北京：商务印书馆]
- 马真 1988程度副词在表示程度比较的句式中的分布情况考察，《世界汉语教学》第2期：pp. 81-86
- 马真 2004《现代汉语虚词研究方法论》，北京：商务印书馆
- 潘纯 2013《毛泽东选集》中副词“比较”的特殊用法考察，《华中师范大学研究生学报》第20卷第1期：pp. 88-92
- 彭小川·胡玲 2009转折句中的“还是”，《汉语学习》第6期：pp. 3-10
- 邵敬敏·刘焱 2002比字句强制性语义要求的句法表现，《汉语学习》第5期：pp. 1-7
- 沈家煊 2001跟副词“还”有关的两个句式，《中国语文》第6期：pp. 483-493
- 石毓智 2006《语法化的动因与机制》，北京：北京大学出版社
- 史佩信·杨玉玲·韩永利 2006试论比字句的形成及其与先秦两汉有关句式的渊源关系——兼论“词汇兴替”，《中国语文》第2期
- 帅宝春 1999说“太A了一点”，《汉语学习》第2期：pp. 53-55
- 王力 1943《中国现代语法》[王力 1985《王力文集 第二卷》，山东教育出版社]
- 王励 2008表转折的副词“还”，齐沪扬主编《现代汉语虚词研究与对外汉语教学》第2辑：pp. 44-49，上海：复旦大学出版社
- 王阳阳·马贝加 2007副词“更”的语法化，《浙江教育学院学报》第1期：pp. 72-80

- 文全民 2008 “更”和“还”在肯定与否定比较句中的差异,《世界汉语教学》第 1 期:pp. 58-67
- 吴长安·乔立清 2009 也说“还”的基本义,《现代中国語研究》編集委員会編『現代中国語研究』第 11 期:pp. 81-90, 朋友書店
- 吴福祥 2006 《语法化与汉语历史语法研究》, 合肥:安徽教育出版社
- 吴颖·李沛 2010 “还是”的基本义和派生功能, 齐沪扬主编《现代汉语虚词研究与对外汉语教学》第 3 辑:pp. 595-604, 上海:复旦大学出版社
- 武果 2009 副词“还”的主观性用法,《世界汉语教学》第 23 卷第 3 期:pp. 322-333
- 萧国政 1999 “形容词+‘点’”的信息功能与语义取值,《世界汉语教学》第 4 期:pp. 39-46
- 肖溪强 1993 “更”字歧义句及其相关句式,《南京师大学报(社会科学版)》第 4 期: pp. 109-113
- 肖溪强 2002 《现代汉语语法与对外汉语教学》, 上海:学林出版社
- 谢平 2011 浅论现代汉语的程度表达,《世界汉语教学》第 25 卷第 3 期:pp. 357-366
- 邢福义 1995 “更”字复句,《中国语言学报》, 第 5 期:pp. 82-96
- 邢福义 2000 “最”义级层的多个体涵量,《中国语文》第 1 期:pp. 16-26
- 徐峰 2012 认知、表达与副词“还”的主观化, 齐沪扬主编《现代汉语虚词研究与对外汉语教学》第 4 辑:pp. 60-74
- 徐烈炯·刘丹青 2007 《话题的结构与功能(增订本)》, 上海:上海教育出版社
- 许国萍 1996 “比”字句研究综述,《汉语学习》第 6 期:pp. 28-31
- 殷志平 1995 “X 比 Y 还 W”的两种功能,《中国语文》第 2 期:pp. 105-106
- 于奉知 1998 “更”字句的语义、语用分析,《汉语学习》第 1 期:pp. 35-36
- 于立昌·夏群 2008 比较句和比拟句试析,《语言教学与研究》, 第 1 期:pp. 14-18
- 袁毓林 2008 反预期、递进关系和语用尺度的类型——“甚至”和“反而”的语义功能比较,《当代语言学》第 10 卷第 2 期:pp. 109-121
- 赵素萍 2004 日汉程度副词「もっと」与“更”的对比略论,《徐州师范大学学报(哲学社会科学版)》第 30 卷第 5 期:pp. 73-75
- 张伯江·方梅 1996 《汉语功能语法研究》, 江西教育出版社
- 张伯江·方梅 2007 《汉语功能与语法研究》, 北京:中国社会科学出版社
- 张伯江 2011 现代形容词做谓语问题,《世界汉语教学》第 25 卷第 1 期 pp. 3-12
- 章纪孝·水野义道 1984 汉语“更”和日语“もっと”,《语言教学与研究》第 1 期:pp. 33-40
- 张亚军 2003 程度副词与比较结构,《扬州大学学报(人文社会科学版)》第 7 卷第 2 期:pp. 60-64

- 张谊生 2000 《现代汉语副词研究》，上海：学林出版社
- 张谊生 2004a 《现代汉语副词探索》，上海：学林出版社
- 张谊生 2004b 近代汉语强化否定的“白”“再”“更”“通”——兼论主观化在汉语副词再虚化中的作用，《汉语史学报》第4辑：pp. 83-96
- 张谊生 2009 “更”字比较句中多项比较的程序与格式，《世界汉语教学》第4期：pp. 443-456
- 张谊生 2010 《现代汉语副词分析》，上海：上海三联书店
- 张谊生 2014 《现代汉语副词研究(修订本)》，北京：商务印书馆
- 赵军 2007 现代汉语相对程度副词语义偏移性考察，《云南师范大学学报》第5卷第4期：pp. 78-82
- 赵素萍 2004 日汉程度副词「もっと」与“更”的对比略论，《徐州师范大学学报(哲学社会科学版)》第30卷第6期：pp. 73-75
- 赵元任著·吕叔湘译 1979 《汉语口语语法》，北京：商务印书馆
- 郑娟曼 2009 “还 NP 呢”构式分析，《语言教学与研究》第2期：pp. 9-15
- 周小兵 1995 论现代汉语的程度副词，《中国语文》第2期：pp. 100-104
- 周筱娟 2001 试说“更+形”的组合和入句，《武汉教育学院学报》第20卷第1期：pp. 53-61
- 朱德琳 2003 从量的角度看程度副词“更”，《高等函授学报(哲学社会科学版)》第16卷第1期：pp. 18-20
- 朱德琳 2003 “更”移入带“得”动补结构的语法条件，《培训与研究——湖北教育学院学报》第20卷第1期：pp. 22-25
- 朱德熙 1982 《语法讲义》，北京：商务印书馆
- 宗守云 2011 说反预期结构式“X比Y还W”，《语言研究》第31卷第3期：pp. 28-32

〈英語〉

- Bartsch, R. and Vennemann, T 1972 *Semantic Structures*. Frankfurt / Main: Athenäum.
- Bergs, Alexander and Diewald, Gabriele (eds.) 2008 *Constructions and Language Change*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Brinton, Laurel J. and Elizabeth C. Traugott 2005 *Lexicalization and Language Change*. Cambridge University Press.
- Brown, P. & S. C. Levinson 1987 *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge University Press.

- Chao, Yuen Ren 1968 *A Grammar of Spoken Chinese*. University of California Press.
- Charles N. Li and Sandra A. Thompson 1989 *Mandarin Chinese: A Functional Reference Grammar*, University of California Press.
- Grice, Paul H. 1975 Logic and Conversation, Peter Cole and Jerry Morgan eds., *Syntax and Semantics* 3. *Speech Acts*. pp.41-58, New York: Academic Press.
- Haiman, John 1978 Conditionals are topics. *Language* 54:pp.564-589
- Heine, Bernd., Kuteva, Tania 2002 *World Lexicon of Grammaticalization*. Cambridge University Press.
- Kamp, J. A. W 1973 Two theories about adjectives, Edward L. Keenan ed., *Formal Semantics of Natural Language*, pp.123-155, Cambridge New York/Melbourne. Cambridge U.P
- Kennedy, Christopher 2007 Modes of Comparison. Malcolm Elliot, James Kirby, Osamu Sawada, Eleni Staraki, and Suwon Yoon eds., *CLS* 43, pp.141-165, Chicago: Chicago Linguistic Society.
- Langacker, R.W. 1987 *Foundations of Cognitive Grammar*. (Vol. I). Stanford Univ. Press.
- Meng Yeh 1998 ON 还 HAI IN MANDARIN. *JOURNAL OF CHINESE LINGUISTICS* Vol.26 No.2 : 236-280.
- Morgan, Jerry L. 1978 Two Types of Convention in Indirect Speech Act. *Syntax and Semantics* 9 : *Pragmatics*. Academic Press.
- Palmer, F. R. 2001 *Mood and Modality, 2nd ed.* Cambridge University Press.

〈工具書〉

- 『広辞苑』第六版，2008，新村出編，岩波書店
- 『認知言語学キーワード事典』，2002，辻幸夫編，研究社
- 『白水社中国語辞典』，2002，伊地智善繼編，東京：白水社
- 《古汉语虚词用法词典》，1988，陕西师范大学词典编写组编，陕西人民出版社
- 《古代汉语虚词通释》，1985，何乐士、敖镜浩、王克仲、麦梅翹、王海葵，北京出版社
- 《现代汉语词典(第6版)》，2012，中国社会科学院语言研究所词典编辑室编，北京:商务印书馆
- 《现代汉语虚词例释》，1982[2010]，北京大学中文系1955、1957级语言班编，北京:商务印书馆

## 論文の内容の要旨

論文題目 現代中国語における「比較」と「程度」の考察  
—— “还”、“更”、“比较” を中心に ——

氏 名 前田 真砂美

本論は、現代中国語ではいかなる手段で程度性を発現しようとするのか、その仕組みを解明する糸口を、程度副詞の考察という側面から提起するものである。現代中国語の程度副詞には、表される程度性に幅がある、多義的であるとされる語が多く存在する。本論はまず、それらの程度副詞のうち、“还(なお、まだ)”、“更(さらに、ずっと)”、“比较(比較的、なかなか)”の3つを主な対象とし、文法化や意味拡張の経緯、認知意味論的、語用論的観点を視野に入れて考察したうえで、各副詞に対し、程度の高低とは別のひとつの網羅的な意味定義を付与する。そして、上記3つの程度副詞に対するケーススタディを通して得られた成果を有機的・体系的に結び付け、程度副詞に程度性が読み込まれる理由の究明を試みる。程度性は比較と不可分な概念である。“最(最も)”や“更(さらに、ずっと)”のような相対的程度副詞は言うまでもなく、一見比較とは無縁と思われる“很(とても)”や“非常(非常に)”などの絶対的程度副詞も、広義には比較を背景としていると考えられる。では、比較を行いその結果を述べることと、程度の高低を表すこととの具体的な関連はどのようなものだろうか。本論は、比較を通して得られる程度性とはどのようなもので、現代中国語の程度副詞はいかなる手段で程度性を表そうとしているのか、すなわち、中国語における程度性の発現のメカニズムおよび特徴を把握し、記述することを目指す。

本論は6つの章からなる。

序章では、本論の研究目的と研究背景について述べる。程度副詞や程度性に関わる先行研究を概観したうえで、本論の問題意識が、程度副詞が程度そのものを自立的に表すという前提に対する疑問にあることを示す。

第一章では“还”について考察する。“还”は多義的な副詞であるとされ、その意味や用法の解釈は、「継続を表す」、「程度が高いことを表す」、「程度が低いことを表す」、「意外性を表す」などの多くの項目に細分化されたうえで定義されることが多い。本論では、このように細分化した際の意味項目間の関連性が不明瞭であること、とりわけ、“还”が一方で程度が高いことを表し、一方で程度が低いことも表すという解釈には、ひとつの語が程度性大と程度性小という相反した意味を表すという点で不合理さが存在することを指摘し、認知言語学的なアプローチにより、副詞“还の核心的意味の定義を試みる。副詞“还”は動詞“还 huán”から文法化を経て得られたものである。本論はこの点に着目し、副詞“还”の核心的意味が、動詞“还 huán”（戻る、戻す）の「もとの領域（原状域）にあったものが別の領域へと移動し、それがまたもとの領域（原状域）へ移動する」という「原状回帰」に由来することを指摘し、副詞“还”がもつとされる様々な意味を、この「原状回帰」のスキーマのもとに有機的に関連付ける。その結果、副詞“还”がもつとされる様々な意味・用法が、「原状回帰」を表すという、動詞“还 huán”に由来する機能のもとに成り立つものであり、“还”は事態の傾きが意識された場合に用いられ、事態の傾きに反した原状回帰、すなわち、「事態の傾きと事実とを照合した結果、その照合の軌跡が事態の傾きに反して原状域へと回帰することを表す」のが、“还”の核心的意味であり機能であることを明らかにした。また、継続、高程度、低程度、意外性といった、従来の研究において“还”自身が自立的に表すとされるこれらの意味は、原状回帰を表すという“还”の機能とコンテキストが結びつくことによって表され得る含意であると結論付けた。

第二章では“更”について考察する。“更”もやはり多義的であるとされ、もともとから一定の程度をもっているがそれよりくさらに>上であることを表す場合と、「もともとから一定の程度をもっている」という意味を含まず、「逆の面との比較」である場合があるとされる。ここにおいても、従来の研究ではくさらに>と「逆の面との比較」との間の関連性が明らかにされておらず、また、“更”がどのような場合にくさらに>を表し、あるいは「逆の面との比較」となるのかという点について議論が尽くされていないことが問題となる。“更”も“还”と同様に、動詞からの文法化により副詞的用法を獲得している。本論では、“更”が

もとは「かえる、かわる」という意味を表す動詞であることに注目したうえで、“更”が使用されるコンテキストを詳細に観察することにより、“X比Y更W(XはYよりさらにWだ)”という比較構文における“更”は、聞き手が一般通念やコンテキストから事前にYに対して抱いている「Yはレベルが高い」という認識を、「Xはそれより上だ」と述べることで覆すものであるという結論を導き出した。動詞の意味に由来する“更”のこの「認識の変更」という機能は、聞き手が一般通念やコンテキストから事前にYに対して抱いている「Yはレベルが高い」という認識を、「Xはそれより上だ」と述べることで覆すものである。このような定義づけにより、現代中国語の“更”において、「逆の面との比較」ではなくさらに>のほうが優先的な解釈となることについても、合理的な回答を示すことができた。すなわち、現代中国語では、“X比Y更W”のようにコンテキストのない状況で“更”が用いられた場合、特に「Yはレベルが高い」という一般通念やコンテキストがなくても、「Yもレベルが高い」という解釈が優先的に選択されるが、それも、この認識の変更機能により、“更”の使用上当然存在するはずの「YはWである」という解釈をYに付与することで、変更すべき認識を充足しているのである。本論では、“更”と“还”との比較も行う。三項比較、最上級を表す用法、比較される二者間の差を述べる場合、「たとえ」の表現などにおいて、“更”と“还”の使用状況を調査し、その振る舞いの違いを記述することで、“更”と“还”の意味的差異をより明確なものにする。

第三章では“比较”について考察する。本論は、“比较”が一般的には相対的程度副詞に分類される語でありながら“比字句(“比”構文)”とは共起しないことを議論の出発点とし、絶対的程度副詞を用いるのが適切な環境で“比较”が用いられる例の検証を通して、現代中国語における“比较”は原則として特定の比較対象をもたず、絶対的程度副詞化しつつあることを指摘する。まず、比較、相対性といった概念を整理する。比較を「他のものとの比較」と「話者の心理内にある標準値との比較」とに二分し、前者に伴う相対性を〈外的相対性〉、後者に伴う相対性を〈内的相対性〉とした。そして、“比较”が特定の比較基準をもたず、ゆえに、相対的程度副詞でありながら“比字句”とは共起しないこと、および、一部の用法では絶対的程度副詞を用いるのが適切な環境でも用いられることから、“比较”が〈外的相対性〉だけでなく〈内的相対性〉も獲得しつつあることを述べ、このような“比较”は、〈外的相対性〉を取り入れることで「他と比べるなら」という条件を付ける機能をもっていることを明らかにする。この機能は、断定性の緩和につながっている。“还”、“更”と同様に、程度副詞“比较”についても、表される程度が高い場合とさほど高くな

い場合とがあることが先行研究において指摘されているが、〈外的相対性〉を取り入れることで「他と比べるなら」という条件を付ける“比较”には、話し手の断定的な判断を避ける機能があり、このことがとりわけ高いわけでも低いわけでもない曖昧な程度性につながっているのである。

第四章では、介詞“比(～より)”を用いるタイプの比較構文(“比字句”)と、“比”は生起しないものの、“[跟/和/同/与] Y 比起来(Yと比べると)”や“[跟/和/同/与] Y 相比(Yと比べると)”といった形で文中に比較の基準が導入されるタイプの比較構文について考察する。“比”を用いるタイプの比較構文と用いないタイプの比較構文はともに比較の基準を文中に導入するが、本論は、その語用論的特性には差異があることを検証し、そのうえで、本来、比較の基準を明示した文とは共起しないはずのいくつかの程度副詞が、後者のタイプの比較構文とは共起可能となりつつあるという言語事実を挙げる。具体的には、比較構文が「明示的比較文」と「非明示的比較文」の2つの比較のモードのうちいずれに分類されるかを判別する5つの識別テストを、“比字句”と“跟/与/和/同+Y+相比”と“比起+Y(来)”などのその他の程度比較を表す構文に対して行い、両者はともに特定の比較基準を文中に導入することができるものの、比較基準を明示する動機が語用論的に異なることを検証し、以下のような結果を得た。“比”を用いる“比字句”は「明示的比較文」である。文中のYは基準点であり、Yのレベルを基準としてXがそれより上であるか否かが述べられる。それに対し、“比”を用いないその他の比較構文は「非明示的比較文」であり、文中のYは、通常は真であるとは言い難い「XはWである」という命題を真に変えるために導入される。比較構文前節の“跟/与/和/同+Y+相比”と“比起+Y(来)”などの比較形式は、「XはWである」という判断を断定的に述べることを避けるために「Yと比べるのであれば」という条件をつける役割を担っているのである。さらに、これらの比較構文は“比字句”がもつ構文的制約を受けず、自由度が高いため、使用頻度の増加とともに後節のバリエーションが増え、本来は比較構文と共起不可とされる絶対的程度副詞や“比较”の共起も許容されつつあることを指摘した。

終章では、本論での結論をまとめる。また、本論では扱い切れなかったいくつかの点を今後の課題として提示する。